大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第14週（4月4日～4月10日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～　手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「小児科定点・眼科定点疾患報告数　ほぼ横ばい」

第14週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は529例であり、前週比1.0%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.87、0.30、0.27、0.08、0.06である。

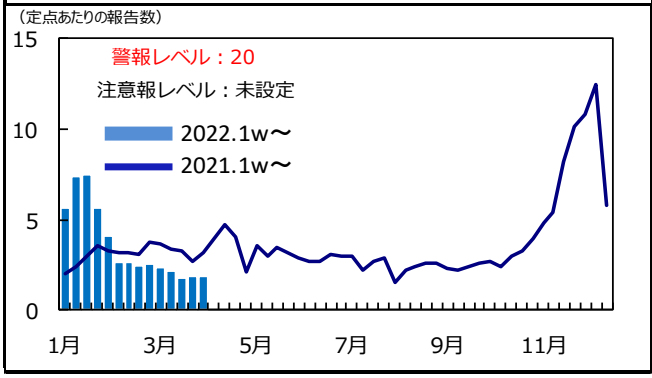
感染性胃腸炎は前週比3%増の367例で、南河内3.81、大阪市南部2.89、北河内2.46、三島1.81、泉州1.80であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2%減の52例で、中河内1.00、三島0.31、大阪市北部0.29である。

咽頭結膜熱は25%減の15例で、南河内0.19、大阪市南部0.17、大阪市北部0.14であった。

水痘は71%増の12例で、堺市0.16、大阪市東部・大阪市北部0.14である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

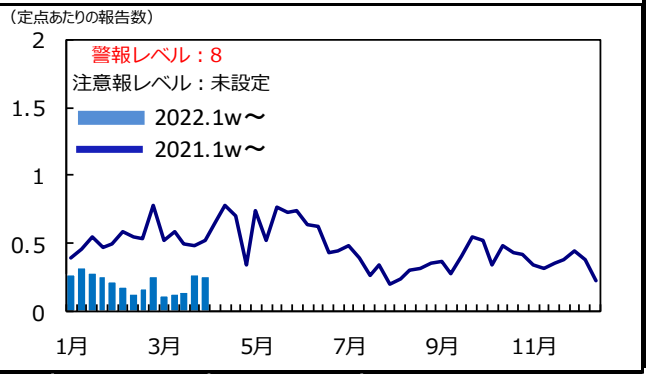


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第14週4月4日～4月10日）

第14週の順位	第13週の順位	感染症	2022年第14週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第14週の定点あたり報告数	2022年第14週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.87	3%増	3.19	２歳_16%
2	2	突発性発しん	0.30	5%増	0.32	１歳_53%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	2%減	0.53	３歳_17%
4	4	咽頭結膜熱	0.08	25%減	0.15	１歳_27%
5	7	水痘	0.06	71%増	0.09	１歳, ５歳, ８歳, _17%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第14週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～　2021年の大阪府の報告数は、25例であった。

全数把握感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）は、バンコマイシンに耐性を獲得した腸球菌である。

術後患者や感染防御機能の低下した患者では腹膜炎、術創感染症、肺炎、敗血症などの感染症を引き起こす場合があるため、集中治療室や外科治療ユニットなど易感染者を治療する部門で問題となっており、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。

VREによる術創感染症や腹膜炎などの治療は、抗菌薬の投与とともに感染巣の洗浄やドレナージなどを適宜組み合わせて行う。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症(国立感染症研究所)

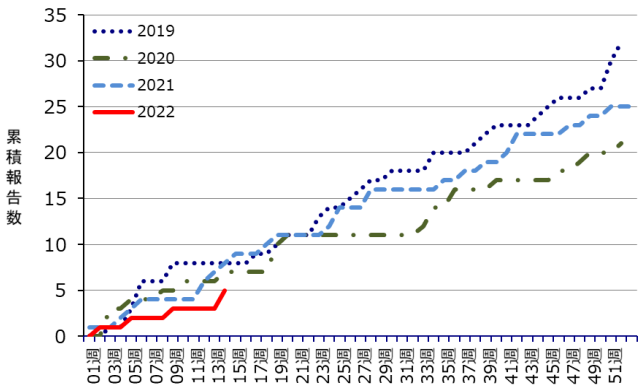


表２．大阪府全数報告数（2022年 第14週4月4日～4月10日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （　）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
４類感染症	**レジオネラ症（肺炎型）**	**3**	1							2	20
５類感染症	**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**	**1**					1				10
	後天性免疫不全症候群	**1**								1	19
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	**1**					1				3
	侵襲性肺炎球菌感染症	**2**	1		1						23
	梅毒	**6**	1			1		1		3	272
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	**2**	2								5
新型インフルエンザ等感染症	**新型コロナウイルス感染症**	**26,917**	2020年1月以降累計　832,818								
結核 （2022年2月分）	**結核　新登録患者数：40名** （府内累積報告数　92名、内　肺・喀痰塗抹陽性　37名）	（内　肺・喀痰塗抹陽性　14名）									

（2022年4月12日　集計分）

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。